

研修プロデュース論

－効果を引き出す企画・設計・実施

学術情報システム総合ワークショップ

2018年9月12日（水）

於・国立情報学研究所（NII）

岡本真

アカデミック・リソース・ガイド株式会社（ARG） 代表取締役/プロデューサー



自己紹介

－岡本真とアカデミック・リソース・ガイド株式会社（ARG）

学問を生かす社会へ

自己紹介

ー現在を見渡す

1. アカデミック・リソース・ガイド株式会社（ARG） 代表取締役（2009年～）
2. 総務省委嘱 地域情報化アドバイザー（2012年～）
3. オーマ株式会社 代表取締役（2011年～）
4. saveMLAKプロジェクト プロジェクトリーダー（2011年～）
5. 図書館総合展運営委員会 運営委員（2008年～）
6. NPO法人横浜コミュニティデザイン・ラボ 理事（2010年～）
7. 一般社団法人減災ラボ 理事（2017年～）

その他、国立情報学研究所（NII） 研究員、早稲田大学客員研究員、
東京大学松尾豊研究室協力研究員等を兼任

自己紹介

－過去をふりかえる

- ▶ 1973年生まれ
 - ▶ 45歳
 - ▶ 国際基督教大学（ICU）卒業（1997年）
 - ▶ 日本政治思想史を専攻
- ▶ 教育雑誌、学術書等の編集者等を経て、
- ▶ 1999年～2009年、ヤフー株式会社に在籍
 - ▶ Yahoo!カテゴリ、Yahoo!検索、Yahoo!知恵袋、Yahoo!検索ランキング、Yahoo!ラボ等の企画・設計・運用、また産学連携のコーディネートに従事

[参考]

アカデミック・リソース・ガイド株式会社 (ARG)

▶ 創業：

- ▶ 2009年9月30日

▶ 前史：

- ▶ 1998年7月11日創刊のメールマガジン“ACADEMIC RESOURCE GUIDE (ARG)”

▶ ビジョン：

- ▶ 「学問を生かす社会へ」

▶ 体制：

- ▶ 役員6名、社員3名 + 委託2名
- ▶ 男女比4:7
- ▶ 20代～50代まで全世代



学問を生かす社会へ

[参考]

研修等のイベント企画・実施実績

受託系

1. NII学術情報ウェブサービス担当者研修
2. 図書館総合展
3. L-1グランプリ
4. ニコニコ学会Bシンポジウム
5. 足立区立図書館サービスデザイン研修
6. 指宿市図書館指定管理NPO自立経営・資金調達研修

自主系

1. ARGカフェ&ARGフェスト
2. ARGフォーラム
3. LRGフォーラム
4. Code4Lib JAPAN
5. ライブラリーキャンプ
6. saveMLAK震災訓練メソッド研修

研修講師等の年間50回程度



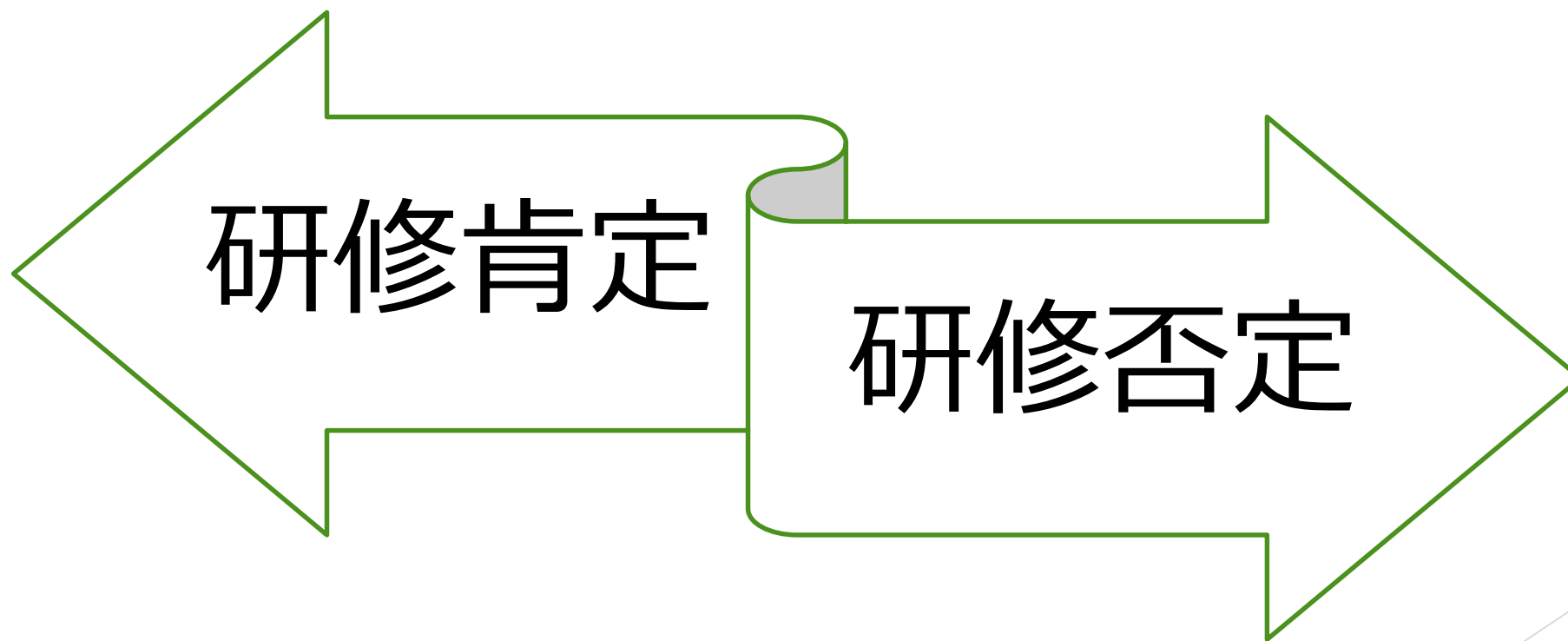
研修プロデュース論

－前提としての研修概論

学問を生かす社会へ

前提としての研修概論

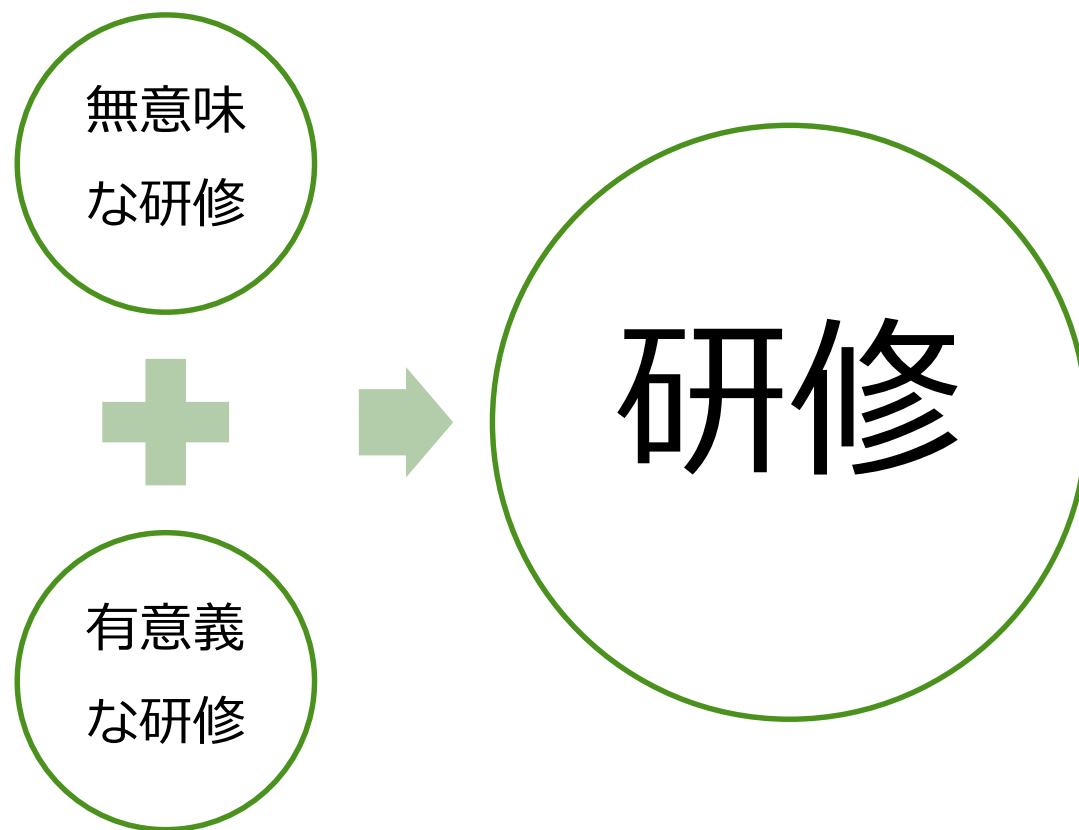
－「研修」への賛否両論



学問を生かす社会へ

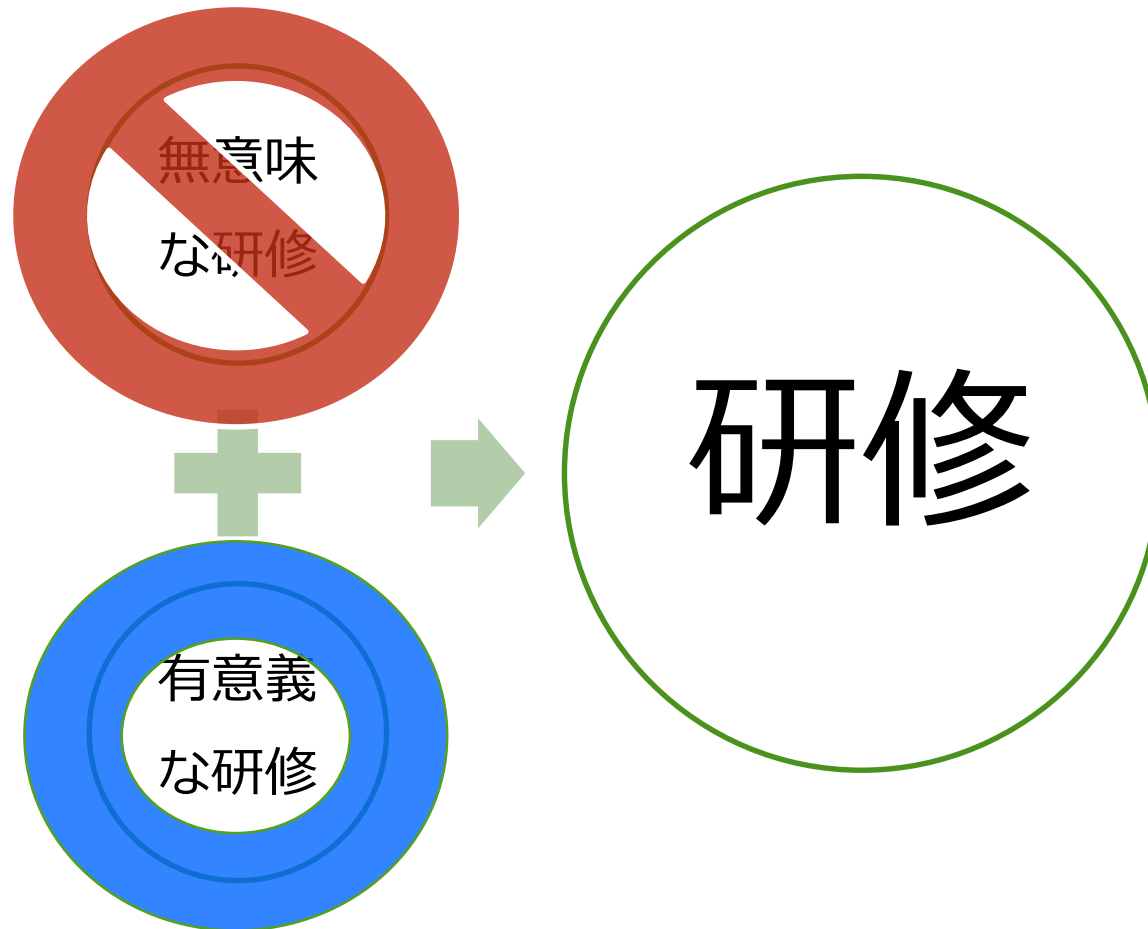
前提としての研修概論

－「研修」への賛否への答え



前提としての研修概論

－ 「研修」への賛否への答え



前提としての研修概論 －無意味な研修が量産される理由

義務モデル

- 実施が義務づけられているパターン
- 初任者、セキュリティなど

惰性モデル

- 長く続いているから続けるパターン
- 伝統化、利権化など

紐帯モデル

- コミュニティー形成（お山）を図るパターン
- お山の大将、派閥、資格商法など

前提としての研修概論

－本講座の目指すところ

有意義な研修
の増加

恵まれた労働
環境の構築

仕事における
結果・成果

学問を生かす社会へ



研修プロデュース論

－NII学術情報ウェブサービス担当者研修の事例研究

学問を生かす社会へ

NII学術情報ウェブサービス担当者研修の事例研究 －2011年からの段階的リニューアル

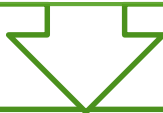
旧・学術ポータル担当者研修（2004年度～）

学術ポータル構築を経て2006年からリポジトリ研修へ



新：学術ポータル担当者研修（2011年度～2012年度）

ウェブサービスの構築研修への転換



学術情報ウェブサービス担当者研修（2013年度～2015年度）

過年度受講者がファシリテーターを務めるスタイルに昇華

NII学術情報ウェブサービス担当者研修の事例研究 －リニューアルの目的（ARG側の理解）

リポジトリの離陸
(DRF等)

ウェブサービスへの
適応の必要性

ディスカバリー等
の展開

NII学術情報ウェブサービス担当者研修の事例研究 －NII・ARGの担当者間の共通目標

300人

年間2回開催×各回30名 = 60名
5ヶ年度の実施期間（終了前提）
※最終的には回数変更により240名

NII学術情報ウェブサービス担当者研修の事例研究 - 実際のカリキュラム (2011年度) ※初年度

学術ポータル担当者研修

- 掲載資料を参照・利用する場合には、作成者に連絡の上著作権表示を明記するほか、著作権には充分配慮してください。
- 名古屋会場では講義(4)「学術情報流通を実現する技術(2)-応用技術-学術情報サービスとウェブAPIと講義(7)「サービスの設計」を入れ替えました。

名古屋	NII	時間	内容	講師等	講義資料
8/3(水)	8/24(水)		学術情報流通の現状と課題、用いる技術を把握し、自らの状況を可視化(マップ化)できるようにする。		
		9:30-9:45	開講式		
		9:45-10:15	講義(1)「学術情報流通の現状と課題」	岡本真(アカデミック・リソース・ガイド株式会社 代表取締役/プロデューサー)	[名古屋]資料 [東京]資料
		10:15-10:45	講義(2)「流通する学術情報コンテンツ」	山本哲也(名古屋大学情報推進部情報推進課)	資料
		10:45-11:15	講義(3)「学術情報流通を実現する技術(1)-要素技術」	[名古屋] 江草由佳(Code4Lib JAPAN) [東京] 高久雅生(Code4Lib JAPAN)	資料 資料
		11:15-11:45	講義(4)「学術情報流通を実現する技術(2)-応用技術-学術情報サービスとウェブAPI」	大向一輝(国立情報学研究所 コンテンツ科学研究系 准教授) [名古屋] 江草由佳(Code4Lib JAPAN) [東京] 高久雅生(Code4Lib JAPAN)	資料 資料 資料
		19:00-19:30	講義(5)「モデルサービスの企画意図と技術設計」	大向一輝(国立情報学研究所 コンテンツ科学研究系 准教授)	資料
				[名古屋] 片岡真(九州大学情報システム部情報推進課)	資料
				[東京] 天野綾里子(九州大学附属図書館eリソースサービス室)	資料
				[名古屋] 吉本龍司(Nota, Inc. エンジニア)	資料
				[東京] 神原啓介(お茶の水女子大学 お茶大アカデミックプロダクション 特任リサーチフェロー)	資料
				田辺浩介(合同会社次世代図書館システム) 山本哲也	資料 資料
		13:30-14:00	グループ討議(1)「学術情報流通の今後」	ファシリテーション/WG	
		14:00-15:00	グループ討議(2)「モデルサービスの現状把握」	ファシリテーション/WG	
15:00-15:30	グループ発表(1)「モデルサービスの現状」	ファシリテーション/WG	[名古屋]資料		
15:45-16:45	グループ討議(3)「モデルサービスの課題把握」	ファシリテーション/WG	[東京]資料		
16:45-17:30	グループ発表(2)「モデルサービスの課題」	ファシリテーション/WG			
8/4(木)	8/25(木)		趣向や学内、あるいは発注先業者にて提示する企画書と要求仕様書(実現したい機能・動作を論理的に言語化するレベル)を作成できるようにする。		
		9:30-10:30	講義(6)「サービスの企画」	岡本真(アカデミック・リソース・ガイド株式会社 代表取締役/プロデューサー)	[名古屋]資料 [東京]資料
		10:00-10:30	講義(7)「サービスの設計」	[名古屋] 吉本龍司(Nota, Inc. エンジニア) [東京] 神原啓介(お茶の水女子大学 お茶大アカデミックプロダクション 特任リサーチフェロー)	資料 資料
		10:30-11:00	講義(8)「サービスの仕様策定」	岡本真(アカデミック・リソース・ガイド株式会社 代表取締役/プロデューサー)	[名古屋]資料 [東京]資料
		11:00-12:30	グループ討議(4)「サービスの企画」	ファシリテーション/WG	
		13:45-15:15	グループ討議(5)「サービスの設計」	ファシリテーション/WG	[名古屋]資料
		15:15-16:45	グループ討議(6)「サービスの仕様策定」	ファシリテーション/WG	[東京]資料
		17:00-17:30	グループ発表(3)「サービス企画案提案」	ファシリテーション/WG	
8/5(金)	8/26(金)		書類の作成完了とともに、参加者同士の関係が密になり、研修後の相互のフォローアップを行えるコミュニティを形成する		
		9:30-11:00	グループ討議(7)「サービス企画提案のブラッシュアップ」	ファシリテーション/WG	[名古屋]資料
		11:00-12:00	グループ討議(8)「サービス企画提案のブラッシュアップ」	ファシリテーション/WG	[東京]資料
		13:15-14:15	グループ討議(9)「サービス企画提案のブラッシュアップ」	ファシリテーション/WG	

あらかじめ用意されたメニューによる一種の予定調和

学問を生かす社会へ

NII学術情報ウェブサービス担当者研修の事例研究 - 実際のカリキュラム (2013年度)

平成25年度学術情報ウェブサービス担当者研修

- 掲載資料を参照・利用する場合には、作成者に連絡のうえ著作権表示を明記するほか、著作権には充分配慮してください。

九州(九州大学)会場	東京(NII)会場	時間	内容	講師等	講義資料
7/24(水)	9/25(水)		学術情報流通の現状と課題、用いる技術を把握し、自らその状況を可視化(マップ化)できるようにする。		
		9:30-9:45	開講式		
		9:45-10:15	講義(1)「学術情報流通の現状と課題」	大向一輝(国立情報学研究所 コンテンツ科学研究系 准教授)	資料
				[九州] 稲永晶子(琉球大学情報サービス課情報サービス企画係)	資料
		10:15-10:45	講義(2)「学術ポータル担当者研修2012を振り返って」	[東京] 尾城 友視(一橋大学学術・図書館学術サービス課コンテンツ係)	資料
				[九州] 高久雅生(筑波大学図書館情報メディア系准教授)	資料
		10:45-11:15	講義(3)「流通する学術情報コンテンツ」	[東京] 山本哲也(名古屋大学情報推進部情報推進課 専門職員)	資料
				[九州] 石田栄美(九州大学 附属図書館研究開発室 准教授)	資料
		11:25-11:55	講義(4)「学術情報流通を実現する技術(1)-要素技術」	[東京] 江草由佳(国立教育政策研究所 総括研究官)	資料
				[九州] 片岡真(九州大学附属図書館eリソースサービス室eリソースマネジメント係)	資料
		11:55-12:25	講義(5)「学術情報流通を実現する技術(2)-応用技術」	[東京] 飯野勝則(佛敎大学図書館 専門員)	資料
		13:30-14:00	オリエンテーション	岡本真(アカデミック・リソース・ガイド株式会社 代表取締役/プロデューサー)	
		14:00-14:30	グループ討議(1)「学術情報流通の今後」	ファシリテーションWG [九州] 1班: 稲永晶子(琉球大学情報サービス課情報サービス企画係) 2班: 末田真樹子(大阪大学附属図書館図書職員) 3班: 小村愛美(神戸大学附属図書館情報管理課電子図書館係) 4班: 西川真樹子(京都大学農学研究所等整理掛) 5班: 林 豊(京都大学吉田南共通事務部総務課学術情報掛) 6班: 大谷周平(九州大学貝塚地区事務部文系合同図書館資料サービス係)	[九州]資料
		14:30-15:30	グループ討議(2)「モデルサービスの現状把握」		[東京]資料
15:30-16:00	グループ発表(1)「モデルサービスの現状」	オブザーバ(グループ発表(1)(2)): 大向一輝			
16:10-17:10	グループ討議(3)「モデルサービスの課題把握」	[東京] 1班: 長坂 功(慶應義塾大学湘南藤沢メディアセンターマルチメディアサービス担当) 2班: 小暮 昌敏(獨協大学図書館図書情報係) 3班: 松原 恵(東京大学情報システム部情報基盤課学術情報チーム(デジタルライブラリ担当)) 4班: 尾城 友視(一橋大学学術・図書館学術サービス課 コンテンツ係) 5班: 村上 達(東京外国語大学学術情報課目録係) 6班: 柳原 幸子(東北大学附属図書館医学分館運用係)			
17:10-17:40	グループ発表(2)「モデルサービスの課題」				
17:40-17:50	自由討議	オブザーバ(グループ発表(1)(2)): 大向一輝			

過去受講者によるファシリテーションWGを導入

NII学術情報ウェブサービス担当者研修の事例研究 －実際のカリキュラム（2014年度）





学術情報ウェブサービス担当者研修

平成26年度 カリキュラム 及び 講義資料/成果物

【留意事項】

- 掲載資料を参照・利用する場合には、クリエイティブ・コモンズ・ライセンスの表示に従い、著作権には充分配慮してください。

会場：国立情報学研究所

日程	時間	内容	講師等	講義資料
12/10(水)		学術情報流通の現状と課題、用いる技術を把握し、自らその状況を可視化(マップ化)できるようになる。		資料  Creative Commons : 表示
	9:30-9:45	開講式		
	9:45-10:15	講義(1)「ウェブと学術情報サービス」	大向 一輝(国立情報学研究所 コンテンツ科学研究系 准教授)	資料  Creative Commons : 表示
	10:15-10:45	講義(2)「学術情報ウェブサービス担当者研修2013を振り返って」	松村 悠子(長崎大学学術情報サービス課 事務職員)	資料  Creative Commons : 表示
	11:00-11:15	オリエンテーション	岡本 真(アカデミック・リソース・ガイド株式会社 代表取締役/プロデューサー)	
	11:15-13:00	グループ討議(1)「アンカンファレンスによる発想展開」	全員	
	14:00-14:30	グループ討議(2)「アンカンファレンスからのグループ形成」	ファシリテーションWG 石田 唯(東京大学法学部政治学研究所等 図書整理係 一般職員) 梶原 茂寿(北海道大学附属図書館学術システム課システム管理担当係長) 長坂 和茂(京都大学桂地区(工学研究科) 事務局 総務課 図書掛 図書系職員) 早川 美彩(独立行政法人 日本原子力研究開発機構 研究連携成果展開部 研究成果管理課) 松村 悠子(長崎大学学術情報サービス課 事務職員) 八木澤 ちひろ(京都大学医学部 教務・学生支援室 図書掛)	
	14:30-15:00	グループ討議(3)「アイスブレイクによるグループ内理解」	ファシリテーションWG	
	15:00-15:30	講義(3)「サービスの企画」	岡本 真(アカデミック・リソース・ガイド株式会社 代表取締役/プロデューサー)	資料  Creative Commons : 表示
	15:45-16:45	グループ討議(4)「サービス企画のブレインライティング」	ファシリテーションWG	
	16:45-17:15	グループ発表(1)「サービス企画第一案の発表」	全員	
	17:15-17:45	自由討議	ファシリテーションWG	
	18:00-	懇親会		

アンカンファレンスによるテーマ決定によるより主体的な参画

NII学術情報ウェブサービス担当者研修の事例研究 －カリキュラムの骨格となる明確なゴール設定

学術情報流通の現状と課題、用いる技術を把握し、自らその状況を可視化（マップ化）できるようになる。

館内や学内、あるいは発注先事業者に提示する企画書と要求仕様書（実現したい機能・動作を論理的に言語化するレベル）を作成できるようになる。

書類の作成完了とともに、参加者同士の関係が密になり、研修後の相互のフォローアップを行えるコミュニティを形成する。

NII学術情報ウェブサービス担当者研修の事例研究 －研修構成に潜むもう一つのゴール

研修目的

学術情報ウェブの
実践的な
知識・技能の習得

参加者間の継続的
なネットワーク
構築

企画立案と多様な
ワークショップ
手法の修得

NII学術情報ウェブサービス担当者研修の事例研究 －盛り込んだ仕掛け（研修設計）

サービス
企画概論

ワーク
ショップ

フォロー
アップ

成果物公開

ウェブ中継

講義資料の
CC公開

受講者起用

最終企画の
承認・否認投票

NII学術情報ウェブサービス担当者研修の事例研究 － 一体的・連続的な研修設計（関係性）



ワーク
ショップ



最終企画の
承認・否認
投票



フォロー
アップ

「ぼっち」化防止のために、先んじて頼れる知人ネットワークを築いておく

NII学術情報ウェブサービス担当者研修の事例研究 — 一体的・連続的な研修設計（波及性）



学問を生かす社会へ

NII学術情報ウェブサービス担当者研修の事例研究 －結果と効果



240人

年間2回開催×各回30名 = 60名
5ヶ年度の実施期間 (終了前提)
※最終的には回数変更により240名

学問を生かす社会へ

NII学術情報ウェブサービス担当者研修の事例研究 －「効果を引き出す企画・設計・実施」の考察

企画

- 300名養成という明確なゴール設定からの出発
- 同時にコミュニティー構築という課題意識（長研の実績からのまなび）

設計

- 入念に準備された仮説に基づいて練り込まれたカリキュラムの開発
- 参加者満足度を考慮したもう一つのゴールの設定

実施

- 中継・発表・投票といった一定の緊張感・緊迫感の演出
- 合宿を意識した連日の交流機会の設定・実施

2011年度報告書：10562文字、18ページ
2012年度報告書：10548文字、22ページ
2013年度報告書：12014文字、24ページ
2014年度報告書：8810文字、18ページ
2015年度報告書：8803文字、17ページ

NII 学術情報ウェブサービス担当者研修の事例研究 －最終的な成果としての「旅の仲間」と「スター誕生システム」



Credit: NASA, ESA and H.E. Bond (STScI)
宇宙航空研究開発機構 (JAXA) 提供

学問を生かす社会へ



研修プロデュース論

－効果を引き出す企画・設計・実施

学問を生かす社会へ

効果を引き出す企画・設計・実施 －考察を受けての討論

効果を引き出すための研修の
企画・設計・実施の要件は
なにか？

謝辞：

- NIIの歴代ご担当者
- 共同開催の名大・九大のご担当者
- 歴代講師
- なによりも240名の参加者のみなさま

研修プロデュース論

－効果を引き出す企画・設計・実施

学術情報システム総合ワークショップ

2018年9月12日（水）

於・国立情報学研究所（NII）

岡本真

アカデミック・リソース・ガイド株式会社（ARG） 代表取締役/プロデューサー